



私の住むムンバイは、ガネーシヤ祭が盛大なことで有名です。今年は8月27日から10日間ほど続きました。

ガネーシヤは、上半身裸のぼつちやり体形の人の体にゾウの頭を持つヒンズー教の知恵と繁栄の神様で、その特徴的な姿は日本でもすでに有名ですね。

各家庭では、粘土や自然素材で作られたガネーシヤ像を祭殿に安置してお祈りをささげます。親戚や友人の訪問もあり、連日どの家にもぎやかです。

町内会やアパートごとでも、仮

真野 泉さん

新潟市北区出身



設ながら大きくきらびやかな祭殿が建てられ、太鼓隊のパレードと共に華々しくガネーシヤをお迎えします。

中には金、銀、装飾品の保険金

が7億円超えというまばゆいガネーシヤもあります。また、大きい

ことで有名な一番人気のガネーシヤの祭殿には、毎日150万人が来場します。モンスーンの雨の中、祭殿周辺には早朝から長蛇の列ができ、ピーク時にはお参りまでに10時間も並ぶとのこと。人々のガネーシヤ祭への情熱に感服します。

私は祭り期間中の週末、ご近所のガネーシヤを巡るホッピングツアーを楽しみました。仮設ながら祭殿はそれぞれに工夫を凝らしている、ガネーシヤも大きいもの、小さいもの、立っているもの、椅子に座っているもの、あぐらをかいているものなど個性的です。ただ、共通してどのほほ笑みもやさしく慈愛に満ち、輝いて見えました。

9月6日の最終日には、それぞれの家からガネーシヤを運び出し

体は人、頭はゾウの姿で知られ、多くの人から親しまれているヒンズー教の神様ガネーシヤ

海外で暮らす本県関係者が現地の様子を紹介します。ウェブサイトに新潟日報デジタルプラスにも掲載。執筆希望も受け付けています。



(真野さんは新潟市北区出身。1971年生まれ。敬和学園高校で教員を務めた後、配偶者の仕事で2023年に渡印しムンバイ在住。日本語をボランティアで教えています)